

# 地域の力で「減災」 学園大生現状学ラン

阿蘇市

熊本学園大は9月28、29の両日、「減災型地域社会リーダー養成プログラム」の研修を阿蘇市で実施。地域や人の力で災害を減らすという学ランら約20人が昨夏の豪雨被災地の現状や障害者への対応なと学び終えた。

同市蔵原にある障害者自立支援センター作業所「夢屋」では、目が不自由な下村津代さん(63)から日常生活で感じる道路事情の悪影響など話を聞いた。下村さんは病院で盲導犬の同僚を断られた経験にも触れ、「社会はもともと理解を」と話した。

社会福祉学部4年の金田紘和さん(21)は「障害のある人は避難する場合は、最初の1歩が遅れがちだ。悪い話ばかりでこのなかをよむべきでない」。引率した吉村千恵講師は「自然災害時だけではない。お年寄りや障害者やロビイヤーの声を聞くことがこの国の未来に大きくかかると大切な視点だ」と述べた。(今村浩)